

SEA-DOO 210 WAKE SPECIAL IMPRESSION



価格:¥6,279,000(税込)
エンジンタイプ:Supercharged Intercooled Four-stroke,SOHC Three-cylinder Rotax
排気量:1494cc×2 エンジン出力:430hp
全長:6.25m、全幅:2.59m、喫水:0.3m タンク容量:167L 定員:9名

今年 SEA-DOO から登場した新型ジェットボート 210 WAKE を、ドライビングした場合と実際にウェイクした場合とウェイクボード専門誌らしく視点を変えてインプレッションしてみた。プロウェイクボーダーであり、トーイングボートの開発経験もある寺田謙太郎氏に、このふたつの視点から解説してもらおう

Special Thanks:MG マリン Commentator:Kentaro Terada Photograph:andyP



プロフィール
寺田 謙太郎 (てらだけんたろう)
ウェイクボードデモンストレーター、プロスノーボーダー
スポンサー :hyperlite, inhabitant, 風鈴堂、head, boa

VIEWPOINT 1 DRIVING

水上に浮かんだフォルムは思わず乗ってみたい!と感じさせるほど存在感があり、近づいてみるとカラリングや装備が目に入りとても豪華な船に感じられる。従来のボートをただ豪華にしてデザインだけではなくドライビングした瞬間に、このボートはウェイクのトーイングを重視したボートだと感じさせられる。特にヘビーユーザーのドライバー目線で考えられたアクセルの位置や肘掛の高さ角度、シートとの位置、高さ、調整、座り心地と乗ってすぐにその快適さに驚かされるほど。また、「広い」と言う言葉がいくつもの項目

で感じられるのが特徴で、感覚的には2~3フィート大きなボートに乗っている感覚にさせてくれます。内装や装備ももちろんこだわりがあり、これ以上カスタマイズするところがないほど!エンジンが2機でジェット推進も2カ所から水流が押し出されるので、直進性やウェイクが左右対称に整っているか心配であったが、全く持って問題がなかった。ウェイクするにはもちろん、ドライビングの楽しさ、優雅さを兼ね備えボートオーナーになる誇りを持たせてくれるボートだろう。

IMPRESSION START!

操作性

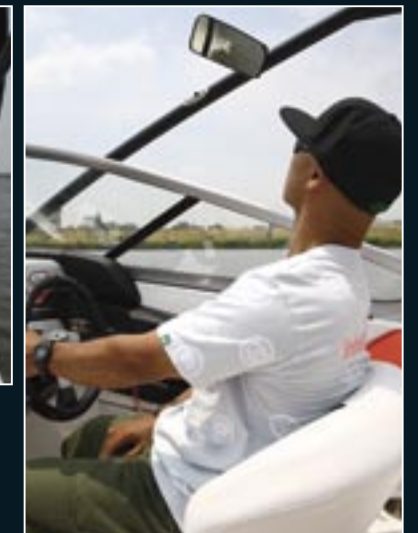
ジェット推進の特性と船体の浮力との相性が良く、ハンドルを切ると敏感すぎるくらいにボートは反応してくれます。エンジンのパワー、ジェット推進の特性でもある加速は非常にいいために、アクセルスロットの重量感が反応の良いエンジンでも細かなスピード調整がやすく、マニュアルモードでもとてもスピードが安定してドライビングができる

旋回性能

シャフトのベラのボートとは違いボートを傾けてターンするのではなく、ジェット推進のノズルでターンさせるために、若干ターンの時にスピードが必要とされ少しスライドする感じを受ける。ハンドルを切った時の反応が早いので、アクセルワークとハンドルの切り角はPWCユーザーならすぐに慣れるだろうが、プロベラのボートを運転している経験者はこの特性を加味したドライビングが必要だろう

前方・後方視界

特徴あるタワーが視界に全く干渉しないので、とにかく視界が広く運転しやすいだけでなくライダーとのコミュニケーションもとりやすい。また360度すべてにおいて見晴らしが良いために安全面でも役だっている。この視界の広さはドライビングしていてもとても爽快感があります。唯一、バックミラーが小さく取り付け位置が上の方なので見づらさを感じてしまった



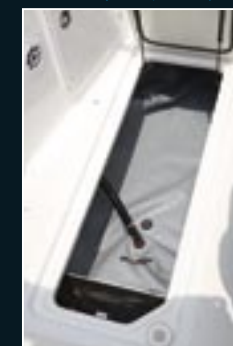
新機能 “スキーモード” について

パーフェクトバスと同じ役割を持つこのシステムはライダーのレベルによってモードが使い分けられるので、1日に何人ものライダーをトーイングする場合にはとても重宝するシステムです。一番の特徴はまだボートになれていないドライバーが使ってもスタートからトーイングスピードまで、ただアクセルを倒すだけで立ち上がりのスローから徐々に設定したスピードまで上がってくれ、本当に何もなくても良いシステムです。ベテランドライバーならより楽しくドライビングできるは言うまでもないですが、経験の浅いドライバーは直進する事に集中でき、より安全にドライビングすることができるようになります

ウォーターバラスト

バラストタンクはボートセンター位置にあるので、空の場合、満タンの場合でもさほど形状は変わらず、ウェイクのサイズが大きく変化していく感じです。空の状態から満タンになるまでの時間も10分以内なので、ライダーが入れ替わる時間内に満タンにしたり、空にしたりできるほどでレベルによって使い分けができ、安全面や燃費にも貢献してくれます。

ウォーターバラスト OFF



ウォーターバラスト ON



エンジン



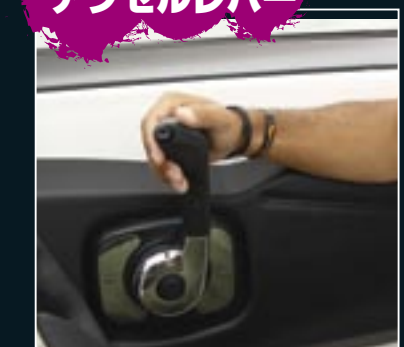
SEA DOO 独自の間接冷却は船底に設けられたプレートで冷やすために外部から水を取り込むことがないので、冷却周りにゴミが詰まってオーバーヒート等のトラブルが起こりにくいというメリットが一番の特徴でしょう。また、環境、燃費を考慮しながらもしっかりとしたパワーを生み出してくれるエンジンはボートの加速を感じていただければ納得できるはず。また、バラストを満タンにして4人乗船の時でも全くストレスなく立ち上がってくれました。バラスト以外でもウェイトを積んでも立ち上がりにはまだまだゆとりがありそうなので、どれくらいまで積めるのか試してみたいくなりました。

イス

柔らかい素材ととても座り心地が良く、しっかりと包みこんでくれるので1日座っていても疲れない座り心地です。アジャストで高い視線でのドライビングも可能ですが、このボートは視界がいいので、僕なら横橋に係留するときくらいしか使わないかもしれません。



アクセルレバー



見た感じと操作した感じがとても重厚で高級感のあるアクセルレバーで、ヨーロッパ車のアクセルを感じさせてくれます。肘掛けの位置が日本人にも合っていて、今まで乗ったボート中では1番良い位置に感じるほど手首が疲れにくく非常に操作しやすい。

VIEWPOINT 2 WAKE

このボートは立ち上がった瞬間からオフザウェイクをしたときに従来のジェットボートとは全く違ったウェイク専用艇だと気づきます。従来のジェットボートで良くある、勢いよくカットアウトした時にボートが傾いたりすることもなく、ラインがたるむことなくライダーをグイグイ引っ張ってくれるパワーを感じます。レジャーはもちろん、何より初めてボートを持つ人には、インポート、船外機のようにプロペラがないので安全面、経済面でもNo1に候補にあがるボートです。もちろん、がっつりウェイクする人、またスキーモードやバラストの出し入

れのスピードなどスクールでも十分対応可能なボートに仕上がっています。今まではウェイクボードをトーイングするには大きく分けてスキーボート、船外機、ウォータージェット推進と3種類のタイプがあり、日本ではスキーボート、船外機は専用艇として認知されてきましたが、このボートに乗ったらウォータージェット推進のボートもただのウェイク専用艇という名称だけでなく走り、ウェイクの形状、パワー、全てが専用艇として肩を並べて認知されていくことでしょう。きっと、近い将来大会でも使用されるに違いないと確信しています。



IMPRESSION START!

ウォーターバラスト ON



ウォーターバラスト OFF



引き波について

引き波の形状は今主流になっているスローブが長くリップに厚みがありしっかりと立っているため、バラストを入れていない状態でもしっかりと当たりを感じる事ができる形状です。初級者はスローブが長いのでウェイクを上り下りする時に引っかかりせず、オフザウェイク、インサイドアウト等もやりやすいでしょう。テスト時は船内にウエイトを積んでなく3人乗船でバラストを入れただけでしたが、リップに厚みがありスピードをつけてのアプローチでもウェイクが崩れることなく、ベースインパートやスピンもしっかりとウェイクに押し上げる力を感じながら飛ぶことができました。ウエイトを積み、上級者でも十分にトリックをこなすことができる形状、パワーを持ち合わせています。ウェイクの幅は少し広いので普段スキーボートを滑っているライダーなら1セクション短くしたほうが楽に2wakeを飛べるでしょう。

VIEWPOINT 3 EQUIPMENT

前項にも述べましたが、この特徴あるタワーはウィンドシールド周りを一切干渉していないので、存在感だけでなく船内を広く感じさせてくれ、ラックのボードの出し入れも楽にしてくれるいくつものメリットを生み出してくれています。この広々とした空間を味わえるのなら太陽の日差しを我慢

してビニートップをたたんだままにしたい気持ちにさせてくれるほどです。また、タワーのカラーリングはシルバーの素材のままが多いが黒に塗られたタワーはよりフォルムを引き締まって見せてくれ存在感をアピールしてくれます。



IMPRESSION START!

船内

スイッチ類やバウの風よけなどの収納がとてもしっかりとされており、決して使い勝手だけでなくデザインもレーシングカーのようなカッコよさで、開発者のこだわり、遊び心を感じさせられるところが随所にあり、白と赤に統一されたデザインがよりエレガントに際だっで見えてきます。特にウィンドシールドはじめ各パーツは素材自体がしっかりしており、少し荒れた面でもガタつきもなく、雨の時などでもしっかりと視界を確保してくれます。すべてが標準装備とは信じられないほどで、カスタマイズするよりもこのまま乗り続けたいと思わせてくれる完成度です。



はしご

水面からライダー自身でとても簡単に出し入れができ、楽にデッキに上がることができます。また、ピーチングした時にも使えるノーズのはしごはウェイクからレジャーまで幅広く使えるボートだと感じさせてくれます



後方のアレンジシート

SEA-DOO ジェットボートお得意のアレンジシート。ただし、この後方のアレンジシートは走行中、安全面上で使用できません。停泊中にはこの後方シートでリラックスする事が可能。釣りをするにもいい感じですね



後方の収納

ボードがブーツ付のまま収納でき、濡れ物のウエットスーツやライフジャケット、ラインなどを収納することができ、船内を濡らすことがありません。僕なら水を入れてバラスト代わりにし、よりリップの立ったウェイクをつくると思います

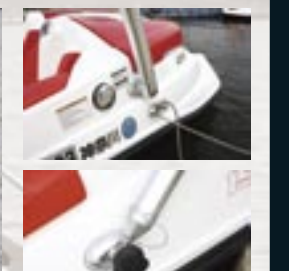


オーディオ

シンプル is Bestと言わんばかりにとてコンパクトなオーディオでメーター回りに邪魔にならずともマッチしています。外部コネクタも装備されているので、IPODでお気に入りの音楽をかける事も可能!



150 SPEEDSTAR



このボートは楽しめる幅がとて広いボートで、まさに軽快に扱えることができる。ウェイクボード、ウェイクスケートなど大技よりも基礎をしっかりと練習するのに向いている。トーイングももちろんだが、噴水が浅く水面からとても近いのでスピード感があり、ドライビングしていることがとても楽しく水の上で手足のように扱えることができる。サイズは小さいがエンジンのパワーや収納、乗り降りしやすいトランサムデッキ、オーディオなどは充実しており、決してスケールダウンしただけではなく、必要なものをコンパクトに集約しているイメージがある。僕もウェイクボートを始めた頃は気軽に扱えるボートで、少人数で交代しながら1日中滑っていた頃を思い出しました。

価格: ¥3,517,500(税込)
エンジンタイプ: Supercharged Intercooled
Four-stroke SOHC Three-cylinder Rotax
排気量: 1494cc
エンジン出力: 255hp
全長: 4.67m、全幅: 2.16m、
喫水: 0.3m
タンク容量: 80L
定員: 4名